



平成 18 年 11 月 8 日

各 位

会 社 名 株式会社フライトシステムコンサルティング
代表者の役職氏名 代表取締役社長 片 山 圭 一 朗
(コード番号：3753 東証マザーズ)
問 い 合 せ 先 取 締 役 松 本 隆 男
電 話 番 号 03 - 3440 - 6100 (代)

**特別損失の発生及び平成 19 年 3 月期
中間・通期（連結・個別）業績・配当予想の修正に関するお知らせ**

当社は、下記のとおり特別損失を計上する見込みとともに、平成 18 年 8 月 14 日付当社「平成 19 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況（連結）及び（個別）」で公表いたしました、平成 19 年 3 月期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）中間期・通期の業績及び期末配当予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

(単位：百万円)

内容	連結	単体
(1) 持分法投資損失	23	—
関係会社株式評価損	—	33
(2) たな卸資産評価損	53	42
合計	77	76

(1) 関係会社株式評価損（持分法投資損失）

- 当社の関連会社であるブレケケ・ソフトウェア社は、昨年の 5 月に製品がリリースされたばかりのスタートアップ段階のベンチャー企業であり、競争力のある有力な IP 電話製品の開発を続けている途上ではありますが、利益が当初計画を下振れして推移していることから、監査法人と協議した結果、金融商品会計基準に基づき、連結上はのれん相当額のうち一部を保守的に早期償却し、持分法投資損失 23 百万円を計上し、個別上は関係会社株式評価損 33 百万円を計上することになりました。

(2) たな卸資産評価損

- ・ 当社におけるシステム開発・ソフトウェア開発案件のうち、当初予想することができなかった仕様変更などによる手戻り、追加作業の発生により原価高となった一部プロジェクトについて、予想外の作業に係る原価部分について回収不可能と判断し、仕掛品 27 百万円の評価損を計上したものであります。

また、外部より仕入れた製品の一部について売却不能と判断し、たな卸資産 15 百万円をたな卸資産評価損として計上することといたしました。

- ・ 当社の子会社であるエレテックス株式会社は、放送機器の製造販売を行っておりますが、特定の案件で使用予定の主要部品が大手部品メーカーの撤退により調達できなくなったことが判明し、過年度より仕掛中であつたたな卸資産 11 百万円を回収不能と判断し、たな卸資産評価損として計上することといたしました。

2. 平成 19 年 3 月期中間期・通期（連結・個別）業績予想の修正

(1) 連結業績予想

① 中間期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日）

（百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,177	△185	△190
今回修正予想 (B)	1,146	△218	△287
増減額 (B-A)	△31	△33	△97
増減率	△2.6%	△17.9%	△51.0%
前期実績 (平成 18 年 3 月期中間期)	—	—	—

- * 平成 18 年 3 月期第 4 四半期より連結財務諸表を作成しているため、平成 18 年 3 月期中間期実績については記載しておりません。

② 通期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

（百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	3,360	40	5
今回修正予想 (B)	3,360	40	△64
増減額 (B-A)	—	—	△69
増減率	—	—	—
前期実績 (平成 18 年 3 月期)	1,843	21	8

- * 平成 18 年 3 月期第 4 四半期より連結財務諸表を作成しているため、平成 18 年 3 月期実績については、平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日までの 3 ヶ月の子会社及び持分法適用関連会社の損益を連結しております。

(2) 個別業績予想

①中間期（平成18年4月1日～平成18年9月30日）

（百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	512	△128	△128
今回修正予想（B）	467	△127	△203
増減額（B-A）	△45	1	△75
増減率	△8.8%	0.8%	△58.6%
前期実績 （平成18年3月期中間期）	653	17	15

②通期（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

（百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	1,650	50	25
今回修正予想（B）	1,650	50	△52
増減額（B-A）	—	—	△77
増減率	—	—	—
前期実績 （平成18年3月期）	1,431	27	24

3. 平成19年3月期中間期・通期（連結・個別）業績予想の修正理由

(1) 連結

中間期業績予想の売上高31百万円の減少は、個別業績予想の売上高が減少することにより、中間純利益97百万円の減少は、主に上記で述べております特別損失の計上によるものであります。

通期業績予想の当期純利益69百万円の減少は、特別損失の計上によるものであります。

(2) 個別

中間期業績予想の売上高45百万円の減少は、特別損失で計上している一部プロジェクトに予想外の人的リソースを投入したことにより、当初想定していた案件に人的リソースを投入できなかったことによるものです。中間純利益75百万円の減少は、主に上記で述べております特別損失の計上によるものであります。

通期業績予想の当期純利益77百万円の減少は、特別損失の計上によるものであります。

4. 配当予想の修正

当社は、株主様への利益還元を経営の重要施策として位置づけて配当を続けてまいりましたが、前述のとおり当期純損失を計上する見通しとなったことから、誠に遺憾ながら、当期の配当は無配とさせて頂く予定であります。

	中間期	期 末	年 間
前回予想 (平成 18 年 8 月 14 日発表)	—	2,800 円	2,800 円
今回修正	—	—	—
(ご参考) 前期実績(平成 18 年 3 月期)	—	2,800 円	2,800 円

(注) 業績予想につきましては、当社が現時点で合理的であると判断する一定の条件に基づき作成しており、実際の業績は予想と異なる場合があります。

以 上